

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開について

研究課題名

顎変形症に対する術前矯正期間を最小限にした早期外科矯正治療の有効性の検討

研究計画

(1) 背景・意義

術前矯正期間を最小限にした早期外科矯正治療の安定性については、術前矯正治療の進行状況により議論の分かれるところである。

(2) 目的

術前矯正治療期間をできるだけ短縮した状態で外科矯正手術をした場合の有効性を検討する。

(3) 方法 (①割付の有無 ②通常の診療範囲を超える医療行為の内容(侵襲性や試料採取等)について記載すること)

当院で行われている術前矯正治療期間をできるだけ短縮した早期外科矯正手術と提携している矯正歯科との一連の矯正治療の有効性を、過去のカルテ調査から、矯正治療期間、全治療期間、術後の骨の後戻り量などを抽出し後ろ向きに調査を行う。

個人情報の取り扱い

本研究の目的を達成するために必要な範囲を超えて診療録からの個人情報を取り扱いません。また、得られた情報は個人が特定されないように匿名化した上で、細心の注意を払い安全に管理します。なお、本研究により得られる研究結果は個人が特定されることはない形でまとめます。

連絡先

東京警察病院 形成外科・美容外科 医長 渡辺頼勝